

未来投資会議構造改革徹底推進会合  
「健康・医療・介護」会合

未来投資会議 構造改革徹底推進会合  
「健康・医療・介護」会合(第8回)

資料 4

令和元年11月27日

# ICTを活用した医療の方向性について —患者参画による個別医療の実現に向けて—

2019年11月27日

医療法人社団鉄祐会  
理事長 武藤真祐

# オンライン診療の基本理念

「オンライン診療の適切な実施に関する指針（H30厚労省）」より

患者の日常生活の情報も得ることにより、  
医療の質のさらなる向上に結びつけていくこと

医療を必要とする患者に対して、医療に対するアクセシビリティ  
(アクセスの容易性)を確保し、より良い医療を得られる機会を増やすこと

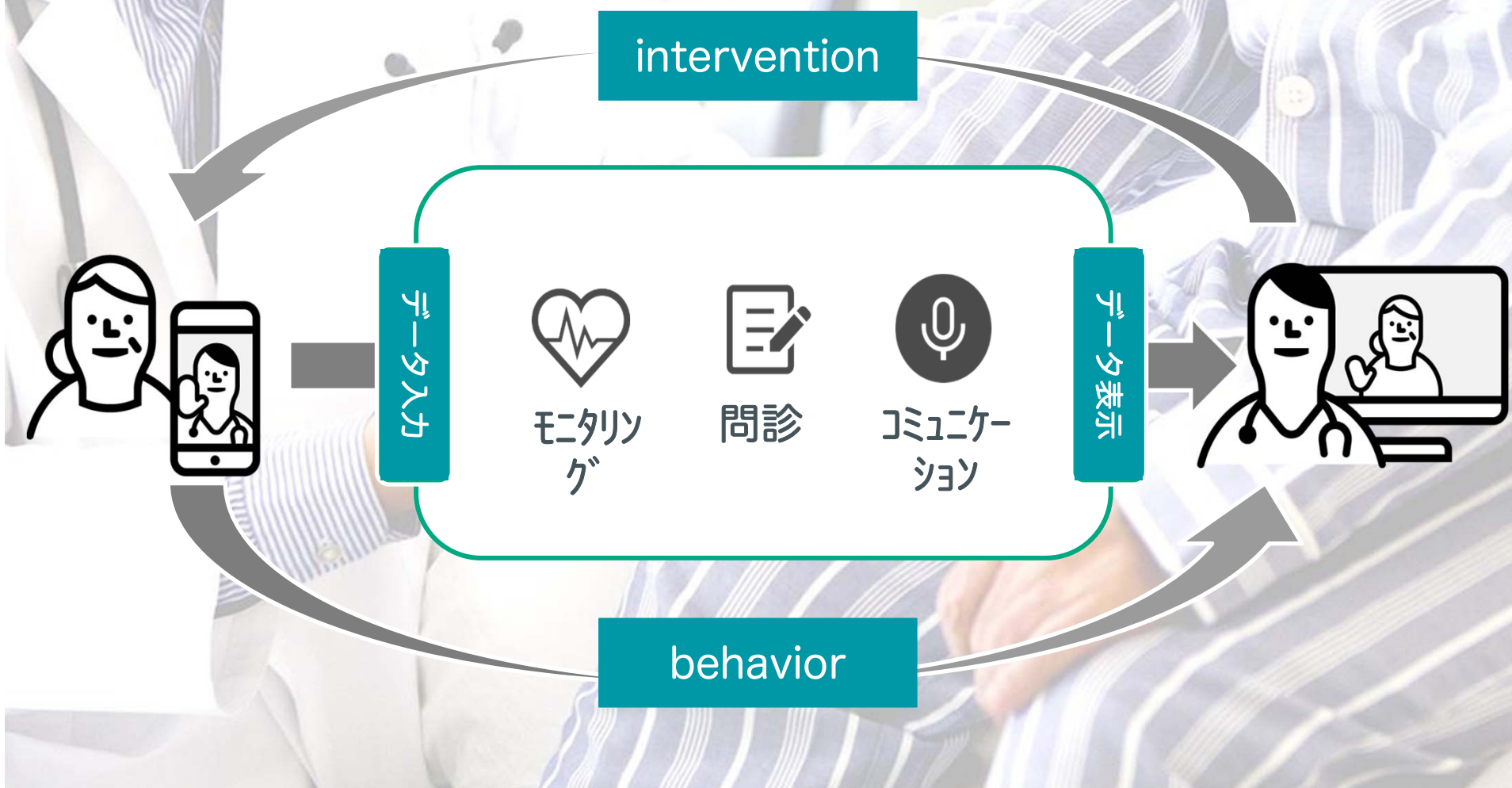
患者が治療に能動的に参画することにより、治療の効果を最大化すること

オンライン診療は、さらなる進化が期待されている

Vision

## 患者参画による個別医療の実現

患者の日常生活における症状や兆候をオンラインで集積し、医療従事者が必要な介入を図ることで、より良い医療を実現する

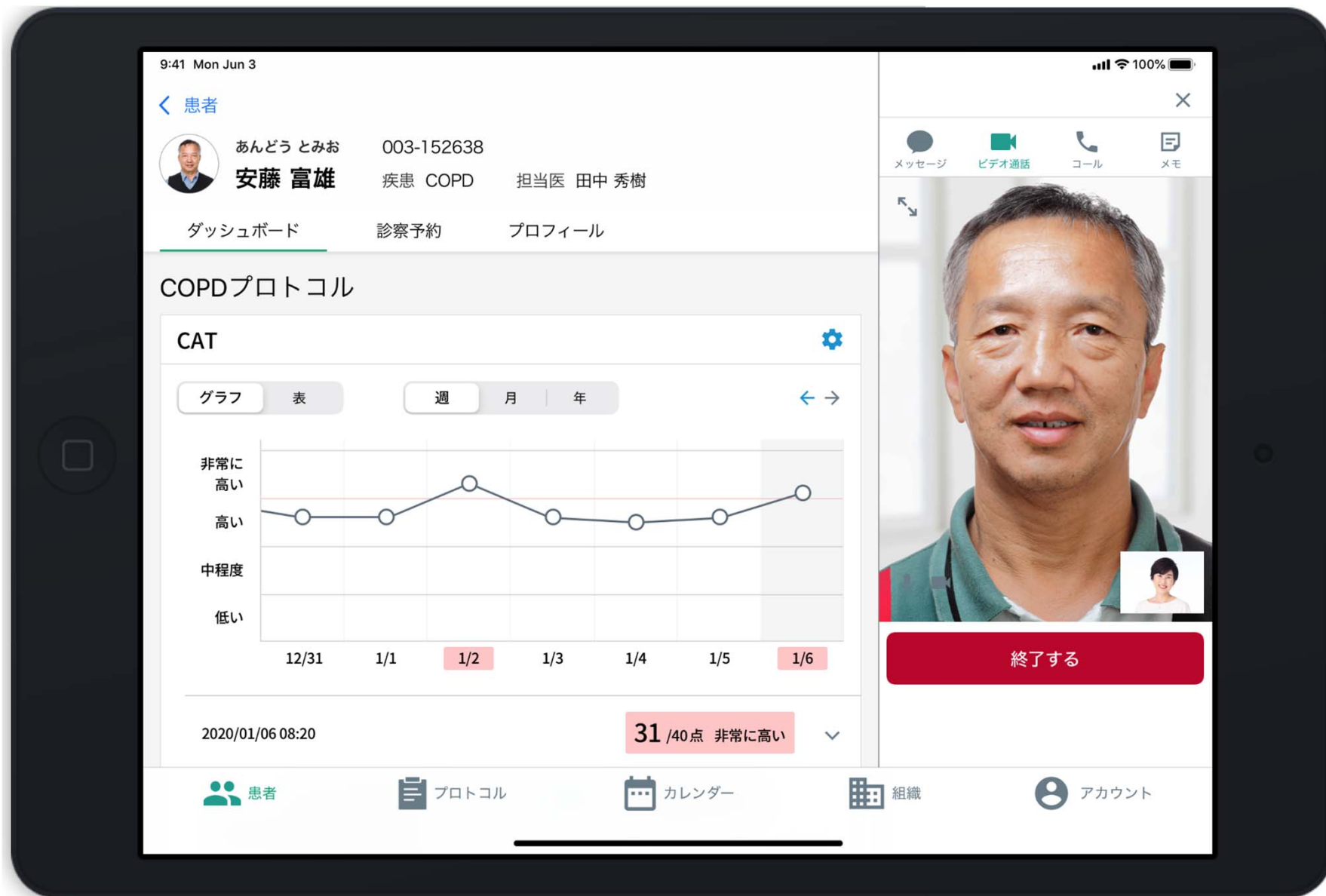


# 事例1 呼吸器内科（COPD）の事例

## オンラインにより患者の症状経過を把握する

- 定期的に受診する患者の、受診の間の日常生活での症状をオンラインで収集、可視化し、医師に伝達する。
- 医師はこれまで可視化されていなかった症状変化を経時的に把握することで適切な治療の提供が可能になる。患者も、変化が見えることや医師との密なコミュニケーションにより、疾患や治療に関するリテラシー、意欲が向上することが見込まれる。

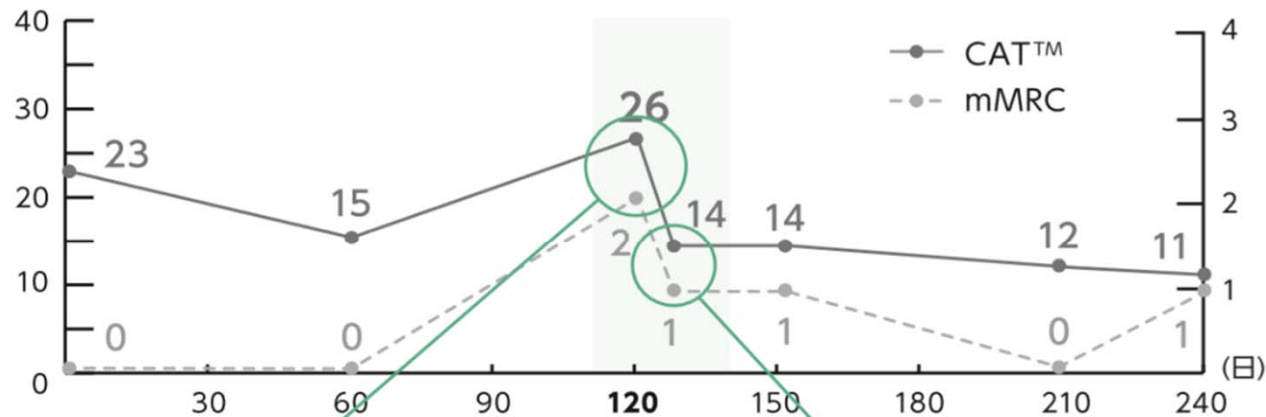




# 症例

## COPD患者における事例

来院時、待合室にてタブレット端末でCAT™・mMRCに回答 出所：「第58回日本呼吸器学会学術講演会」、大阪、2018年4月



スコアの急激な悪化が確認されたため、画像検査を実施のうえ、禁煙を指示。

約2週間後

再検診し症状の安定が見られた。その後薬の処方を変更し、経過を観察した。

 **65歳男性**  
工務店勤務

喫煙歴  
30本/日、44年間  
並存疾患なし  
粉塵曝露歴あり  
GOLD Stage II

FVC	3.37 L
FEV1	1.94 L
FEV <sub>1</sub> %	57.6 %
%FEV <sub>1</sub>	67.8 %
PEFR	2.7L/sec
V50/V25	3.2

医師が、患者の症状変化を経時的に把握することで、より適切な治療方針の決定・実践、患者の適正行動に繋がった。



## 事例2 循環器内科（心不全）の事例

### オンラインにより急性増悪を予防する

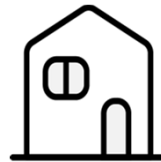
- 退院後一定期間、予め定められた項目についてオンラインでモニタリング、急性増悪の予兆があった場合には適時医師に伝達。コメディカル等チームでの早期介入（例：オンラインでの状況把握等）を検討、実践する。
- 高い再入院率が課題である心不全について、早期介入により患者の行動変容や早期受診を促すことで、急性増悪による再入院を防ぐ。

退院時



- モニタリングの意義、実施方法の説明等を実施

自宅療養



<患者>  
自宅でモニタリング・問診項目を記録

<医療機関>  
記録をチェック。  
異常があった際は早期に介入する。

来院

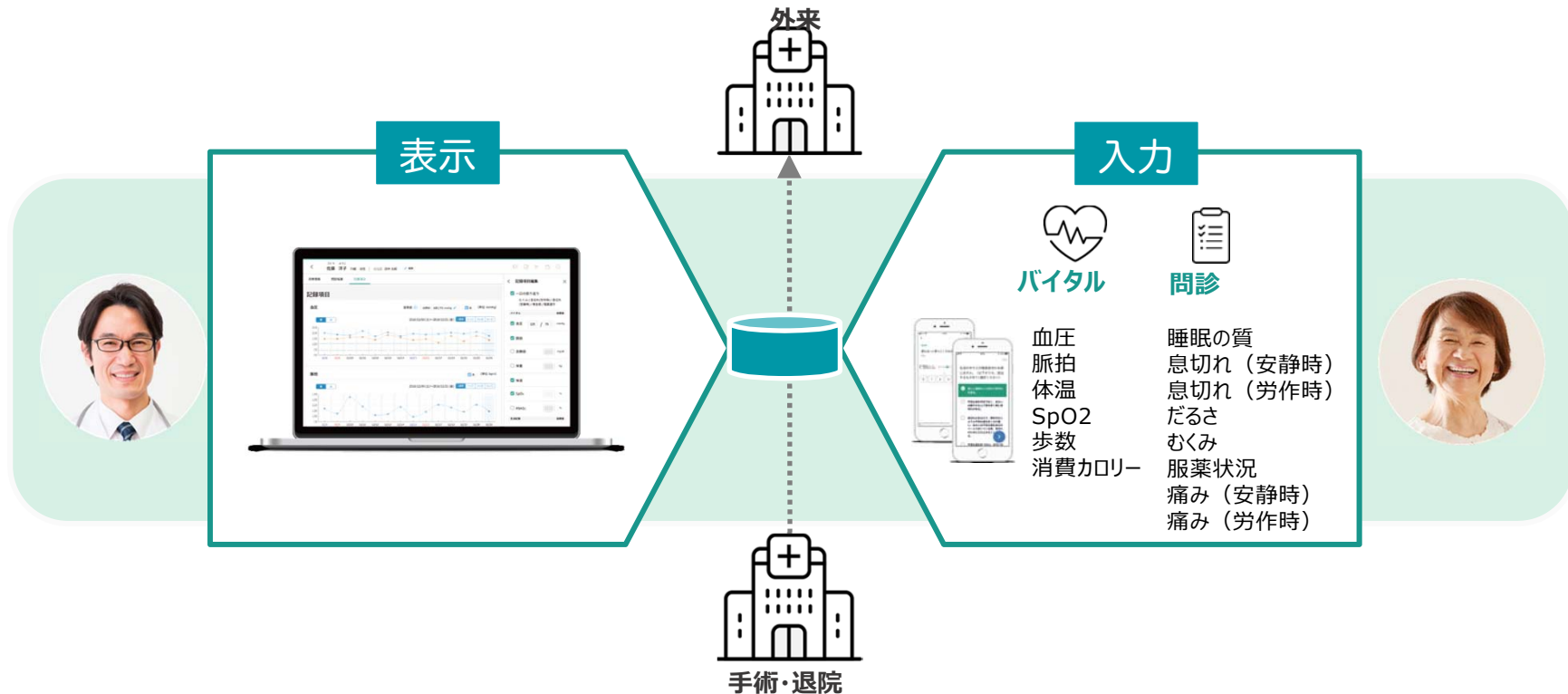


- モニタリングによる症状変化を、医師と患者が共に見ながら、診察。
- 疾患や治療に関する啓発となりアドヒアランスを高め、患者の行動変容を促す

## 事例3 呼吸器外科（肺がん）の事例

### 術後の身体管理により退院患者の安心感ある環境を構築する

- 退院後一定期間、予め定められた項目についてオンラインでモニタリング、医師は患者の回復の経過を確認し必要に応じてコメディカルとともに適時ケアを図る。
- 医師・医療従事者は患者さんへのより細やかなケアが可能になるとともに、チーム内での医療者同士の密なコミュニケーションが生まれる。
- 患者さんもまた、自身の状態に基づき医療者と話ができることによる安心感に加え、例えば仕事復帰に向けた回復の目安としてなど、特にがん患者に多く見られる生活全体の不安の解消にも繋がるのが期待できる。





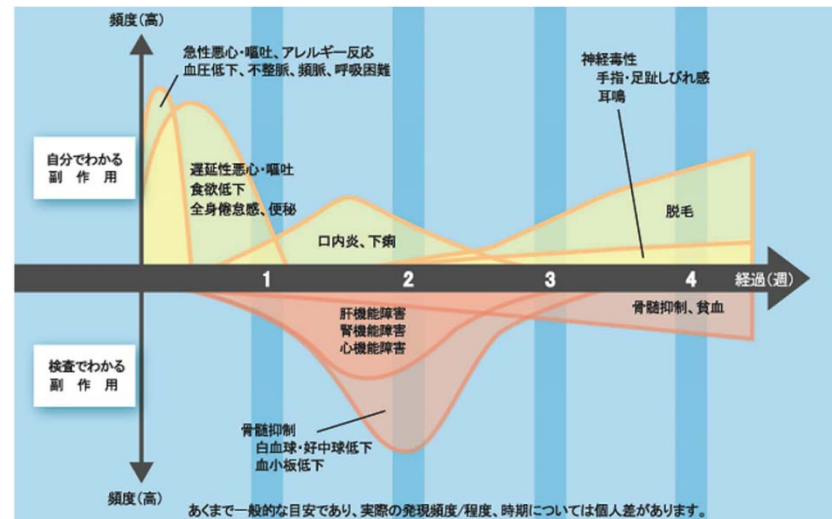
## 事例4 腫瘍内科の事例

### 副作用の出現・変化を初期段階で察知する

- 抗がん剤に代表される、服用・投与期間中に一定の割合で症状が出現・変化する薬剤に関して、治療開始後、予め定められた症状の出現・変化についてオンラインでモニタリング、症状が一定に達した際には、受診を促し必要な対処をする。
- 医師は、原疾患に対する治療方針を継続することができる。
- 患者さんは副作用のQOLへの影響を軽減でき、安心感を持って日常生活を送ることができる。

#### 抗がん剤に伴う症状出現・変化

抗がん剤治療の多くは、治療開始の初期に、自覚症状を伴う副作用が出現する。



出典：国立がんセンターがん情報サービス「化学療法全般について」

#### がん治療中の患者の悩み

治療中の患者の悩みや負担（困りごと）は、5割以上の人が「治療に伴う症状によるつらさ」を挙げている。

(複数回答：回答者数 3,210 名)

治療中の困りごと	実数	(%)
治療に伴う症状によるつらさ	1,612	(50.2%)
外見の変化	1,050	(32.7%)
治療に伴う症状への対処の仕方	936	(29.2%)
治療費・医療費	865	(26.9%)
配偶者への影響や負担	740	(23.1%)
仕事のこと	729	(22.7%)
自宅にいるとき、病院に連絡するかの判断	634	(19.8%)
担当医への症状の伝え方	593	(18.5%)
子供への影響や負担	583	(18.2%)
困ったときの相談先	318	(9.9%)
その他	105	(3.3%)

注) 無回答者を除き、回答者数を母数とした。

出典：静岡がんセンター「がん体験者の悩みや負担などに関する全国実態調査報告書」2013

# ICTを活用した医療の方向性

## ～オンライン疾患管理への発展

- 人口動態、社会環境、疾病構造等の変化に対応した、新しい医療の4つのP (Prevention・Personalized・Precision・Proactive)の実現を、テクノロジーを活用して実現する。

### 活用方法

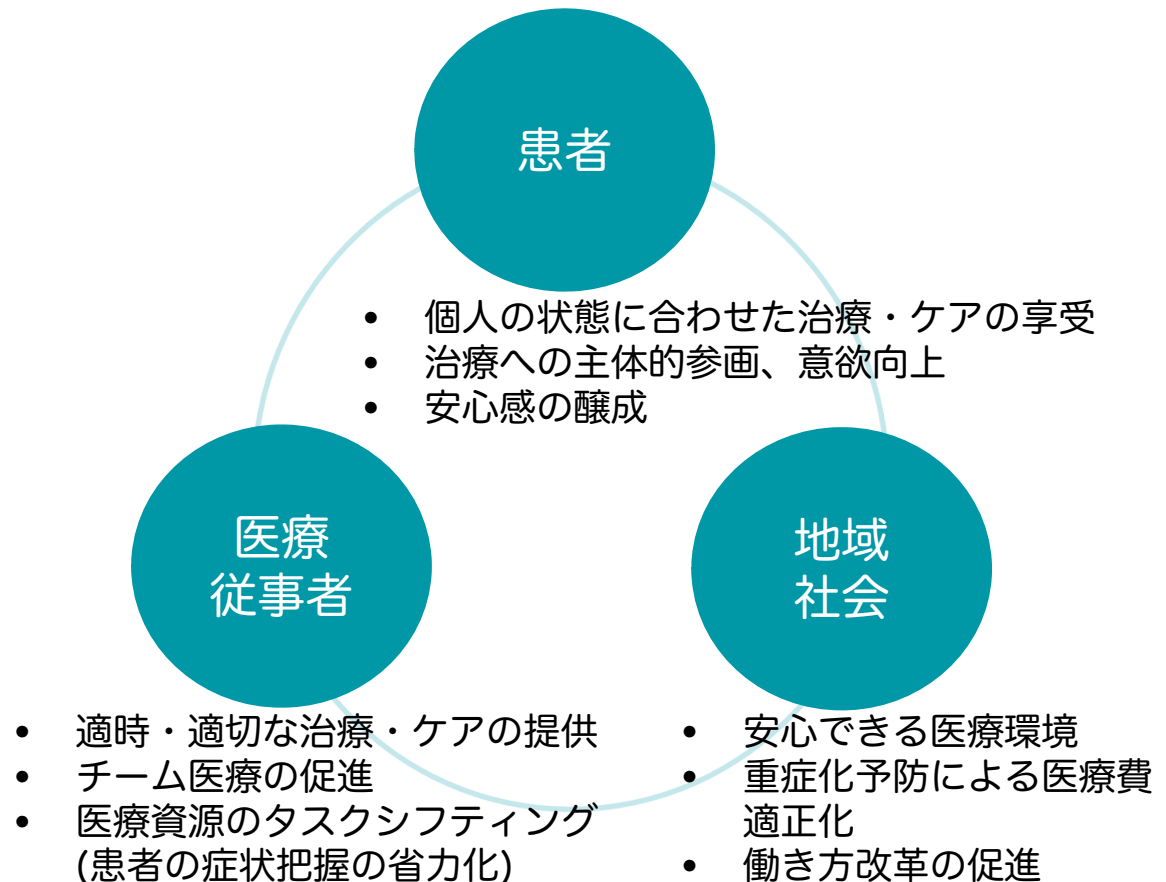
症状経過の把握

急性増悪の予防

術後の身体管理

副作用の察知

### 有用性



# オンライン疾患管理の発展に向けて

## 医学的エビデンスの 創出

- オンライン疾患管理の有用性、安全性、実現可能性についての医学的エビデンスを構築する。

## 経済合理性の 提示

- 社会、医療提供者、医療受益者にとっての、オンライン疾患管理の経済合理性を、医学的のみならず社会的視野で示す。
- 新たな施策導入に際して、計画的に、短・中長期的エビデンスの構築を図る。

## オンライン疾患管理 の評価

- オンライン疾患管理の活用を算定要件に認める、またオンライン疾患管理に伴う技術評価を図るなど、利用しやすい診療報酬制度・ガイドラインを整備する。

ご清聴ありがとうございました